

## 令和3年度 文教福祉常任委員会意見交換会報告書

開催日時	令和4年1月20日（木）午後3時10分～午後4時30分
開催場所	オンライン（Zoom）
テーマ	ICT教育・GIGAスクールについて ①GIGAスクールが始まったの主な意見と感想 ②各学校の導入・活用の進捗度と課題について ③長期休暇中におけるタブレットの利用と持ち帰りについて
出席議員	川畑勝弘委員長 佐野正幸副委員長 田中栄志委員 熊谷麗委員 木村邦憲委員 篠田剛委員 今成優太委員
参加人数	参加者 4人（ICT活用推進リーダー）
実施内容	進行：佐野副委員長 1 開会 2 議長あいさつ 齊藤隆浩議長 3 委員長あいさつ 川畑委員長 4 委員・参加者自己紹介 5 意見交換 6 まとめ感想 佐野副委員長 7 閉会  議会事務局 戸谷主事

## 1 意見交換で出された意見の概要

### ① GIGAスクールが始まっての主な意見と感想

<子どもたちの様子>

- ・子どもたちは本当にパソコンが大好きで、学習意欲がとても高まった。
- ・ノートをとるのが苦手な子も積極的にタブレットを触ろうとしていて、学習意欲が高まっている。

<教員・授業等>

- ・授業の準備で、プリントを印刷する手間を省けるようになった。
- ・教科担任制では複数のクラスの資料を用意するが、タブレットの活用により資料を1つ作れば共用できるため、授業の準備がとても楽になった。
- ・タブレットの中に子どもたちが作ったものが入っているので、学期末の評価がとても楽になった。
- ・授業展開の方法が増えたのが良かった。デジタルとアナログが選べる環境は良い。
- ・ビデオ会議システムを使って、他の学校との交流ができるようになったのが良かった。一例として、小学校の特別支援学級と、児童が卒業してから進学する中学の特別支援学級と交流を行った。子どもたちの体験だけでなく、小学校から中学校に上がった際の教員への引継ぎという点でも良かった。(意見交換会に参加した4校中、3校は他校との交流を行ったことが有る。)
- ・タブレットに加えて、大型モニターを使ってクラス全体で共有できるのは、とても効果がある。
- ・例えば、体育では、自分の姿を撮って後から確認することができるなどの効果がある。
- ・従来は黒板に資料を張って見せていたものを、子どもたちは手元のタブレットで資料を見ることができ、拡大もできるのでとても効果的である。

### ② 各学校の導入・活用の進捗度と課題について

<進捗度>

- ・教員と子ども・子ども同士・職員同士・学校と家庭がそれぞれつながるよう努めてきている。
- ・一日を通して、子どもたちがタブレットに一度も触っていないということがなくなった。
- ・子どもたちは全員の意見を見ることができるようになったため、授業のまとめや振り返りの時に、他の子の言葉をマネしながら書いたり話したりできる子が

増えた。

- ・タブレットの使用開始当初は、子どもたちが書き込む内容に一部問題が見られたが、しっかり話をすることでモラルを守った使い方になった。
- ・教科ごとにタブレットの活用方法が異なるため、それぞれの教科での活用方法を全体で共有し、さらにどの様に有効に活用できるかを研究している。
- ・(ある学校では) 教員が自主的に参加するICTカフェを月に2回程行い、パソコンにあまり得意ではない教員に得意な教員が教えて、知識や能力を高める取り組みを行っている。

#### <課題>

##### (1) ICT化と従来の紙等による授業のバランス

- ・タブレットを使った方が良いのか、それともこれまで通りの指導の方が良いのかを検証しており、自校の教育カリキュラムにどう組み込むかが課題。
- ・デジタルの方が見にくい、紙の方が見やすいという子もいるため、すべての子の教育を保障する点で、すべてがデジタルに変わるというのには不安がある。デジタルの良さと紙の良さをうまく使っていきたい。
- ・タブレットだと漢字変換があるので、出てきた候補から選ぶことになる。また、文章も予測で出てくるため、変換に頼り、その点は紙のノートをとる方が良い。
- ・文字や図を描くのが苦手な子には、デジタルは有効。タブレットの使い方が得意な子は、画を工夫するなど、表現が広がっている。
- ・ローマ字入力が苦手な子は紙に書いたものを写真に撮り、その写真をアップするなどの工夫をしている。
- ・タブレットだと、ドリル学習がゲーム感覚になる。タブレットで、繰り返しゲーム感覚でできることは、量をこなす点ではいい。一方で、記述や思考力を高める点では、紙の方が良い。
- ・ICTはあくまで道具の一つ。なんでもかんでもICT化するのではなく、紙の良さともバランスを見ながらICT化を進めるよう心掛けている。
- ・教科書の量や重さに対応するデジタル教科書活用への取組・課題としては、すべての教科というよりは、社会や理科などの資料が多い教科や、算数の図形など、教科の必要性に応じてデジタル教科書が使われていくといいのではないか。
- ・子どもたちの提出物の回収は、紙よりもデジタルの方が楽である。

## (2) タブレットやその他周辺機器のハード面

### ・通信環境の改善

タブレット導入当初よりは改善されてきたが、通信系のトラブルがまだ見られる。一斉にネットにつなげると、通信トラブルが生じ、画面が固まったり、声が途切れ途切れになったりすることがある。

特に、調べ学習で一斉に使おうとすると、通信上の不具合が生じる。学年・クラス・グループごとに使用する時間をずらしたり、何人かで一台のパソコンを使ったりして、なんとか工夫している。

- ・タブレットに不具合が生じた時は、修理に出すと2～3週はかかるため、端末の予備が各校に数台あるといい。現在、予備の端末は無い。
- ・職員が使える生徒用パソコンが無い。1台でもあると、子どもたちの端末ではどのように表示されているのかなどを確認・研究することができる。
- ・すべてがタブレットで完結するのではなく、授業でまとめた内容を紙でも最後に配布するときのために、クラスに1台等でプリンターがあるといい。
- ・タブレットの持ち帰りをする際は、充電器の抜き差しがとても大変で時間がかかる。持ち帰り用の充電器があるといい。
- ・特別教室にも大型モニターがあるといい。
- ・保管庫などの設置にあたり、建物の構造上かなり厳しい教室がある。各学校・教室により状況が異なるため、全学校一律ではなく、各状況に合ったものを設置してもらえるとありがたい。

## (3) 2種類のタブレット

- ・小学校は、1・2年生と3～6年生とで異なる2種類の端末を使用している。1・2年生用のiPadと、3～6年生用のマイクロソフトのパソコンとでは仕様が異なるため、一緒に教員の研修をすることができない。iPadを使っていた教員が次年度、マイクロソフトのパソコンを使う場合、またその逆の場合は、ともに研修をし直さなければならない。子どもも、2年生から3年生に上がる時、タブレットの使い方を学び直さなければならない。

## (4) その他

- ・今度さらに、子どもたちがタブレットを「学びの道具」として使えるように、タイピングの技能を高める活動が必要である。

## ③ 長期休暇中におけるタブレットの利用と持ち帰りについて

- ・持ち帰りの前に、タブレットを使う約束・ルールの確認を、子どもや保護者としっかり行った。特に、情報モラルについて、子どもや保護者に何度も伝えた上で、持ち帰りを行った。
- ・タブレットのドリル学習に使用を限定して活用した学校があった。
- ・夏期休業に入る前にタブレットのソフトに不具合があり、持ち帰りができなかった学校があった。

## 2. まとめ

当初、今回の意見交換会は、学校現場へ赴き、タブレットを使用した授業を見学後、ICT活用推進リーダーの方々と意見交換を行う予定であったが、新型コロナウイルスの感染が急増したため、急遽、オンライン形式で実施した。

また、保護者から見た子どもの様子を調査するため、富士見市PTA連合会をお招きする意見交換会を予定していたが、新型コロナウイルスの感染が急増したため、中止せざるを得なくなった。

オンライン形式とはなったが、ICTの活用を推進する要の教員であるICT活用推進リーダーの方々と直接意見交換することで、ICT・GIGAスクールを急激なスピードで推進する現場の苦労や課題とともに、既にICT化による効果が、子どもや教員に見られることが分かった。

令和3年度当初の段階で、早々に一人一台のタブレット端末を整備する計画が完遂されたことは評価できる。一方で、実際にタブレットを授業等で活用していくには、多くの課題があることが分かった。中でも、授業の内容において、ICT化した方が効果的か、従来の紙等による方が効果的かの検証、通信環境の改善、タブレット以外の機器も含めた機器の追加整備、タブレットを十分に活用できる教員の育成など、早急に対応すべきことがある。

今年度に行行政視察した他の自治体の事例・状況と併せて、今回の意見交換会等から見えてきた本市の現状と課題を踏まえ、今後の委員会活動に活かしていきたい。

※この記録は、意見交換会での発言をまとめたものです。

発言内容は、趣旨が読み取れる範囲で一部要約してあります。